

景気動向指数でみる静岡県経済の動向

経営管理部 統計利用課

はじめに

景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動における重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合したものであり、長期間にわたり経済活動を把握できる統計です。

特徴としては、景気動向指数は対象期間の2か月後に公表されるため、他の経済統計と比較して速報性に優れている点が挙げられます。

また、景気の現状を示す一致指数だけでなく、景気に先行・遅行して動く先行指数・遅行指数を同時に公表しているのも、特徴の一つです。

今回は、最新の景気動向指数とほかの県内経済動向判断から今後の県内経済の展望を模索します。

1 景気動向指数とは

景気動向指数にはC I（コンポジット・インデックス）とD I（ディフュージョン・インデックス）があります。C Iは、各指標の前月からの変化量を1つの指数に合成したもので、景気の変動の大きさやテンポ（量感）を測定しています。D Iは、各指標を3か月前と比較した時の変化方向を合成したもので、景気の局面（方向）の把握を行います。

また、C IとD Iそれぞれに、景気に先行して動く先行指数、景気にほぼ一致して動く一致指数、景気に遅れて動く遅行指数の3種類があります。このうち、C I一致指数によって、景気についての総合的な判断である基調判断を算出しています。

2 採用指標について

静岡県景気動向指数では、多くの経済指標の中から景気を敏感に反映する3系列24指標を選び、C I及びD Iを算出しています。採用指標については、静岡県経済をより正確に把握できるよう、定期的に検討会を開催し、指標の再検討を行っています。

図表1 採用系列（3系列24指標）

先行系列（10指標）	一致系列（7指標）	遅行系列（7指標）
新規求人数（除学卒パート）	鉱工業生産指数（総合）	鉱工業在庫指数
入職率（製造業、30人以上）	鉱工業消費財出荷指数	常用雇用指数（全産業、前年同月比）
所定外労働時間指数（全産業、30人以上）	第3次産業活動指数（総合）	民間金融機関預貸率（農協等を含む）
新設住宅着工戸数	百貨店・スーパー販売額	貸出約定平均金利
新車登録台数	人件費比率（製造業）*	消費者物価指数（静岡市、前年同月比）
日経商品指数 ○	有効求人数（除学卒パート）	法人事業税調定額（地方法人特別税を含む）
民間金融機関貸出残高（前年同月比、農協等を含む）	輸入通関実績（清水港分）	雇用保険受給者実人員 *
東証株価指数 ○		
企業倒産件数 *		
不渡手形発生率 *		

注 ○…全国数値

*…逆サイクル（景気と逆の動きをする指標のこと。逆サイクルの指標が上昇すると景気は下降し、逆サイクルの指標が下降すると景気は上昇する。）

3 景気動向指数における景気の基調判断

静岡県景気動向指数では、毎月基調判断を公表しています。基調判断の基準については、内閣府が作成している全国版の景気動向指数と同様となっています。

基調判断を行う際には、単月のC I一致指数の前月差は一時的な要因に左右され安定しないため、C I一致指数の3か月後方移動平均、7か月後方移動平均の前月差を中心にして行います。

図表2 基調判断の基準と一致C I標準偏差

基調判断		定義	基準
①改善		景気拡張の可能性が高いことを示す。	原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇。当月の前月差の符号がプラス。
②足踏み		景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す。	3か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上。
③局面変化	上方への局面変化	事後的に判定される景気の谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。	7か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上。
	下方への局面変化	事後的に判定される景気の山が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。	7か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上。
④悪化		景気後退の可能性が高いことを示す。	原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が下降。当月の前月差の符号がマイナス。
⑤下げ止まり		景気後退の動きが下げ止まっている可能性が高いことを示す。	3か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上。

一致CIの「振幅」の目安(標準偏差)	
前月差	2.01
3か月後方移動平均	1.07
7か月後方移動平均	0.77

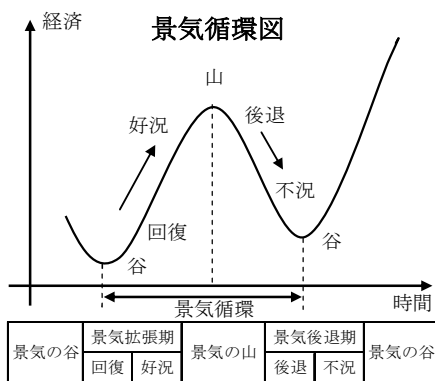
注1：①～⑤に該当しない場合は、前月の貴重判断を継続する。

注2：当月CIの変化方向(前月差の符号)が「基調」と同方向であることを前提としている。

3か月後方移動平均：2か月前～当月までのC I指数の値を平均したもの

7か月後方移動平均：6か月前～当月までのC I指数の値を平均したもの

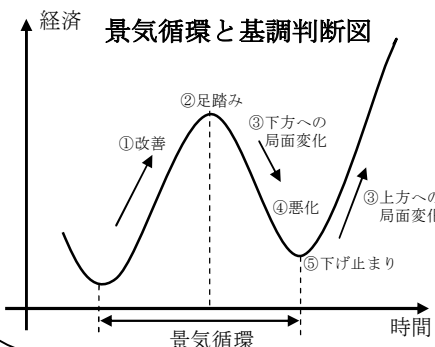
<景気動向指数の基調判断を理解するためのポイント>



ポイント①

景気は一方向的に上がり続けたり、下がり続けたりすることはなく、時間の経過とともに好況と不況を繰り返しています。

左図のように、景気が「好況→後退→不況→回復」といった一連の流れを繰り返していくことを景気循環と呼びます。



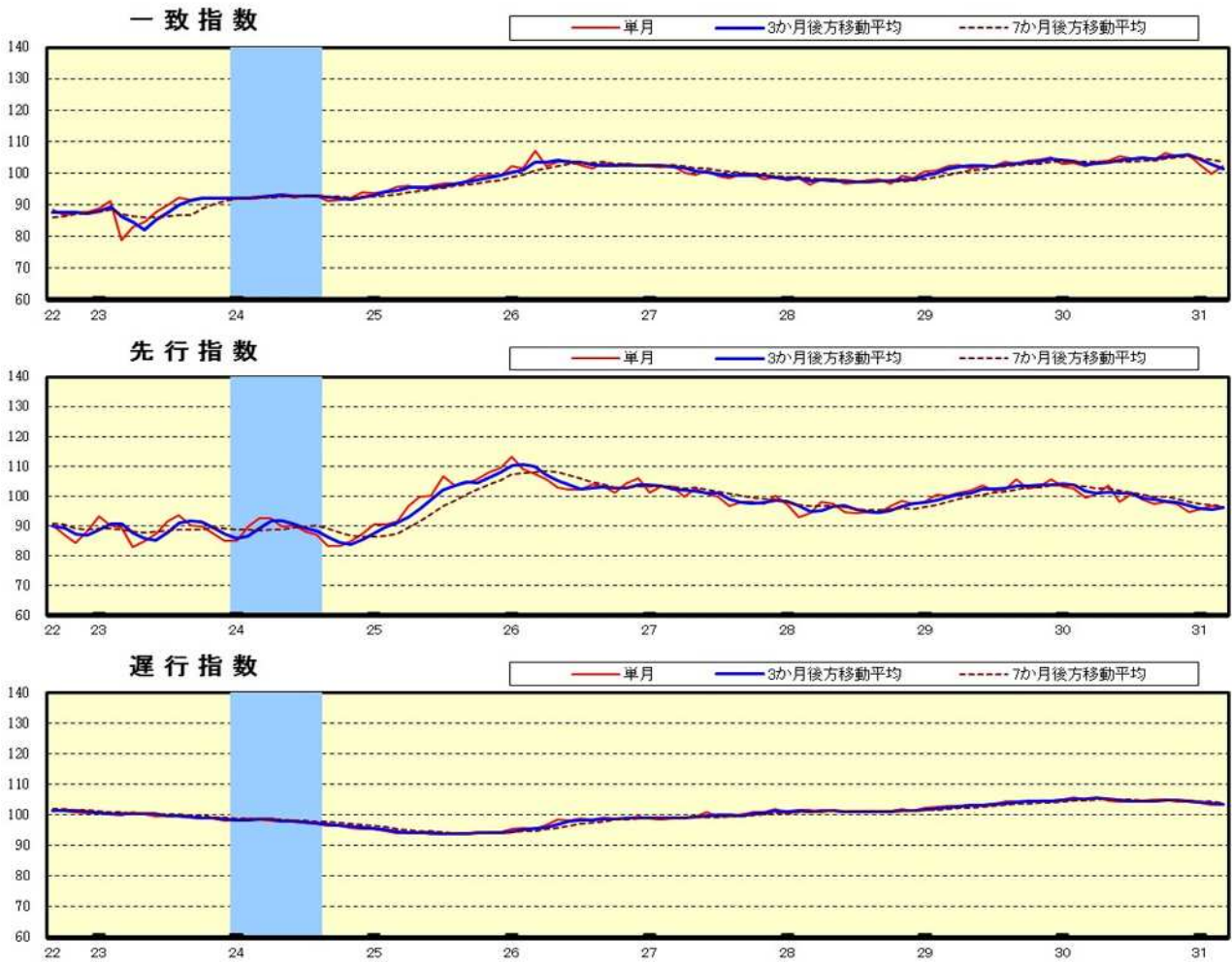
ポイント②

静岡県景気動向指数における基調判断は、上記図表2のとおり、5段階に分かれています。

「改善」「足踏み」は景気拡張期、「悪化」「下げ止まり」は景気後退期にあたります。

また、景気拡張期から景気後退期に変化する場合は「下方への局面変化」、景気後退期から景気拡張期に変化する場合は「上方への局面変化」となります。

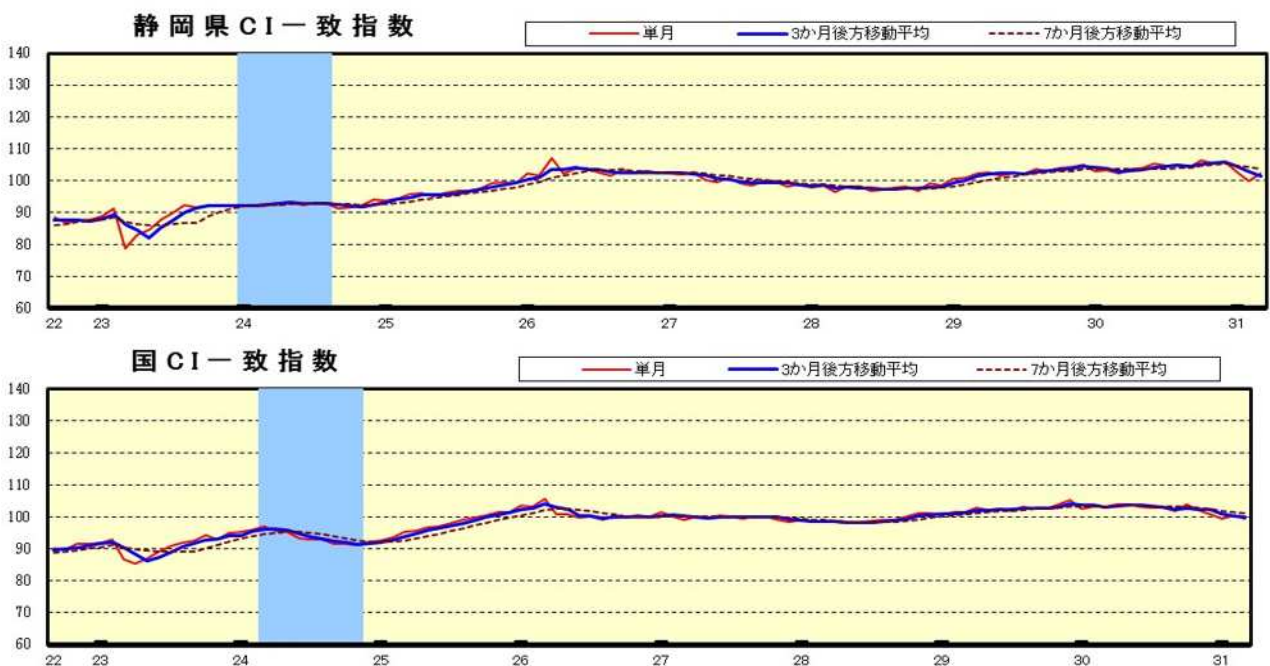
図表3 静岡県景気動向指数（CI）の推移



4 静岡県の最近の景気動向

国と静岡県の一致指数の変化は非常に似ており、これは静岡県が国と同じような経済変化の遷移を辿っていると言えます。国、静岡県とも平成26年以降大きな指数の変化はなく、ほぼ横ばいで推移しています。

図表4 静岡県と国の一致指数の推移



5 本県の最新の景気動向

令和元年5月30日に公表した平成31年3月分の静岡県景気動向指数は、当月CIが上昇しており、「基調」と逆方向であることから、図表2注2にあるとおり、同表中①～⑤のいずれにも該当しません。したがって、同表注1にあるとおり、前月の基調判断を継続し、「下方への局面変化」となっています。

平成31年3月の静岡県景気動向指数は、下方への局面変化を示している。

図表5 直近6か月間のC I一致指数の推移

		H30年10月	11月	12月	H31年1月	2月	3月
C I一致指数	単月	106.3	105.4	105.5	102.5	99.7	102.0
	(前月差)	2.1	-0.9	0.1	-3.0	-2.8	2.3
	3か月後方移動平均	105.1	105.3	105.7	104.5	102.6	101.4
	(前月差)	0.6	0.2	0.4	-1.2	-1.9	-1.2
	7か月後方移動平均	104.6	104.9	105.1	104.7	104.1	103.7
	(前月差)	0.6	0.3	0.2	-0.4	-0.6	-0.4

図表6 図表5の前月差(2.3ポイント)に対する寄与度

寄与度がプラスの指標	寄与度 ①	寄与度がマイナスの指標	寄与度 ②	①+②
百貨店・スーパー販売額	1.28	第3次産業活動指数(総合)	-0.33	2.3
人件費比率(製造業)(逆サイクル)	0.78	鉱工業消費財出荷指数	-0.28	
鉱工業生産指数(総合)	0.72	有効求人数(除学卒パート)	-0.20	
輸入通関実績(清水港分)	0.30			

※寄与度：各指標の景気(C I一致指数)に対する作用の大きさのこと

図表7 D I一致指数の個別指標変化方向表

指標名	季節調整法等	30年										31年		
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		14.3	85.7	85.7	71.4	57.1	71.4	42.9	71.4	71.4	57.1	28.6	14.3	28.6
一致指数														
鉱工業生産指数(総合)	センサス局法	-	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-
鉱工業消費財出荷指数	センサス局法	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-
第3次産業活動指数(総合)	センサス局法	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+	+	-	-
百貨店・スーパー販売額	センサス局法	-	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+
人件費比率(製造業)	逆サイクル	+	+	+	-	-	+	+	+	+	-	-	-	+
有効求人数	除学卒パート	-	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	-
輸入通関実績(清水港分)	センサス局法	-	+	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-

図表7は、静岡県のD Iを用いた一致指数の個別指標変化方向表です。3か月前と比較して、各月の係数の変化の方向を表しています。一致D Iは、景気拡張局面では50%を上回り、後退局面では下回る傾向があります。静岡県では3か月連続で50%を下回っており、景気後退局面であると言えます。

また図表5で示した通り、C I一致指数3か月後方移動平均・7か月後方移動平均とも前月差が3か月連続でマイナスの値となっており、前月差の幅から緩やかに景気後退していると考えられます。

図表 8 直近 6 か月間の C I 先行指数の推移

		H30 年 10 月	11 月	12 月	H31 年 1 月	2 月	3 月
C I 先 行 指 数	単月	98.1	97.5	94.5	95.6	96.7	96.3
	(前月差)	0.6	-0.6	-3.0	1.1	1.1	-0.4
	3か月後方移動平均	98.1	97.7	96.7	95.9	95.6	96.2
	(前月差)	-0.9	-0.4	-1.0	-0.8	-0.3	0.6
	7か月後方移動平均	99.6	99.2	97.9	97.5	96.9	96.6
	(前月差)	-0.2	-0.4	-1.3	-0.4	-0.6	-0.3

では、景気の先行きを示す先行指数はどうでしょうか。3月の静岡県C I先行指数は96.3ポイントで前月と比較して0.4ポイントの下降、3か月後方移動平均は10ヶ月ぶりの上昇となりましたが、7か月後方移動平均は10ヶ月連続で下降しています。先行指数は、一般に3か月先から6か月先の景気を予測しているとされています。数ヶ月前まで緩やかに拡張していた景気は、現在、下方への局面変化を迎えたところですが、今後、景気は悪化していく可能性があるといえます。

景気判断は1つだけではなく、様々な指標を読むことでより多角的に俯瞰することができます。景気動向指数以外の県内景気判断も確認しましょう。

(1) 静岡県月例経済報告（静岡県経済産業部）

平成31年3月を中心とした静岡県の景気は、一部に弱めの動きも見られるが、緩やかに回復している。

雇用情勢は改善の動きを続けている。個人消費は緩やかに持ち直している。設備投資は増加の動きがみられる。輸出は増勢が鈍化している。生産は増勢が鈍化している。

今後の先行きについては、意欲的な設備投資計画などを背景に、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、輸出、生産の回復状況と海外の政治経済情勢に注意する必要がある。

(2) 最近の静岡県金融経済の動向（日本銀行静岡支店）

3月を中心とした県内の景気は、一部に弱めの動きが見られるが、緩やかな拡大を続けている。

最終需要の動向をみると、設備投資は増加が続いている。また、公共投資は増加している。個人消費は雇用・所得環境が緩やかに改善する中、持ち直しの動きが続いている。住宅投資は下げ止まっている。一方、輸出は、海外経済減速を受けて増勢が鈍化している。こうした下で、企業の生産は増勢が鈍化している。雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状態が続いているほか、所得は緩やかな増加が続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回っている。

景気動向指数の基調判断とは異なり、景気は拡大を続けていると判断しています。

6 全国と静岡県の景気循環

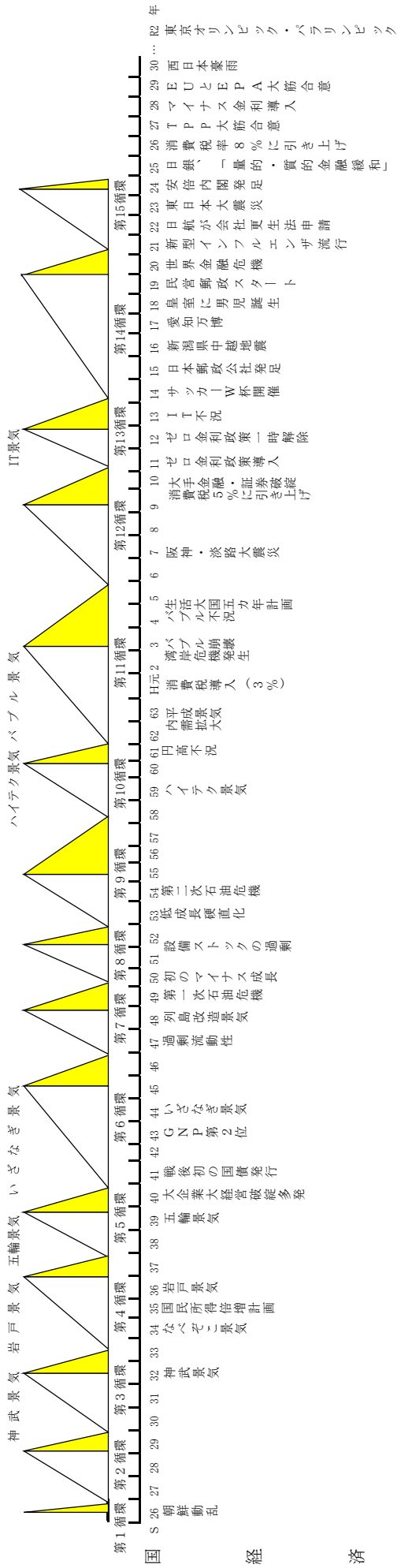
次ページの図表9は全国と静岡県の景気循環及び年ごとのできごとを表しています。

この数年は、2020年東京オリンピック需要の拡大等を背景に景気が拡大してきたといわれています。しかし、2019年10月消費税増税が予定されていることや、オリンピック後はインフラ整備が一巡して需要が落ち着くことなどから、今後景気の伸びは鈍化することも予測されています。実際に、直近の景気動向指数からは、全国、静岡県ともに景気後退方面へ推移していることが読み取れます。

今後の景気変化の観察に、是非、景気動向指数をご利用ください。

図表9 全国と静岡県の景気循環

○全国の景気循環



○静岡県の景気循環

